



全国精神保健福祉業務研修会 in かながわ（横浜）

令和9年 1/30 | 土 | 31 | 日 |

みなと横浜からつなぐ50回の歩み
～積み重ねた実践、広がるみらいへ～

全国からのつながりを力に、共生社会の実現に向けて、
ともに学び、未来をひらく。

会場

横浜市健康福祉総合センター (JR桜木町駅前)

〒231-8482 神奈川県横浜市中区桜木町1-1
JR桜木町駅から徒歩3分

開催日程(予定)

1日目

13:00～13:20 開会・活動報告

13:20～14:20 行政説明

14:30～15:00 基調講演

15:00～16:40 シンポジウム、相談員講習会

2日目

9:00～15:30

各分科会

15:45～16:15

総会

【参加対象】精神保健福祉業務に従事する
自治体職員等

【参加費】会員 4,000円／非会員 10,000円

【定員】各プログラムごとに設定(先着順)

【申込期間】令和8年10月26日(月)～12月28日(月)

※定員に達し次第締め切ります。

研修会 申し込み方法

「全国精神保健福祉相談員会」で検索いただくか、
下記URLにアクセスまたは右記二次元コードより
お申し込みください。

<https://pro.form-mailer.jp/fms/757c8189323935>



懇親会

1/30(土) 18:00～20:30(受付 17:45)

参加費／6,000円

会場／廣東飯店(かんとんはんでん)
神奈川県横浜市中区山下町144



全国精神保健福祉相談員会
Japan Association of Public Mental Health & Welfare Workers

【主催】全国精神保健福祉相談員会 【協賛】大塚製薬株式会社

【後援】厚生労働省、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、
全国精神保健福祉センター長会、全国保健師長会

【協力】新潟大学医学部災害医療教育センター／新潟大学 未来社会共創ラボ

【研修会事務局】埼玉県立精神保健福祉センター 救急情報担当 河本
〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室818-2
E-mail: kensyu@zenseisou.ciao.jp

1日目

1/30 | 土 |

① 特別企画受付

10:30～11:00

② 開会受付

12:30～

HF

ハイレックス型(オンライン可)

特別企画

● 11:00～12:00…8階F会議室／全国研修会50回記念特別企画

「精神保健福祉行政は何を省み、何を受け継ぎ、これから何をを目指すのか」

【コーディネーター・座長】伊東 秀幸氏(田園調布学園大学 教授)

全国研修会が50回を迎えたことを機に、歴史を知ることが目的ではなく、今の精神保健福祉行政の原点を知り、目指すべき方向に目を向けることで、現在の精神保健福祉相談員一人ひとりのこれからの実践にいかしていくための特別企画です。当会設立初期から現在も活躍されている先輩方からのメッセージをお届けします。

開会・活動報告

● 13:00～13:20…3階ホール

当会が積み重ねてきた実践、行政精神保健の歩みについて報告します。 HF可

行政説明

● 13:20～14:30…3階ホール／会場定員260人 HF可

「精神保健・福祉・医療施策の動向と行政の役割」

【講師】海老名 英治氏(厚生労働省 社会援護局 精神・障害保健課長) 最近の精神保健福祉施策の動向や今後の方向性について講演いただきます。

基調講演

● 14:30～16:40…3階ホール／会場定員260人 HF可

シンポジウム

基調講演：● 14:30～15:00 「支援者がより良い支援を続けていくために～共に歩み続ける力を、つながりの中で未来へつなぐ～」

【講師】長谷川 俊雄氏(白梅学園大学名誉教授)

支援者は、誰かを支え続ける中で、迷いや葛藤、閉塞感を抱え、「このまま支援を続けられるだろうか」と感じることがあります。しかし、そのような時だからこそ、一人で抱え込まず、同じ立場の仲間と経験や思いを分かち合い、支え合うことが、より良い支援を継続する力につながります。本講演では、支援者支援の視点から、支援者自身が支えられることの意味と、支援を続けるための実践について考えます。

シンポジウム：● 15:00～16:40 「支援者がより良い支援を続けていくために～支援をつなぎ、未来をひらく実践を語る～」

【座長】川本 絵理氏(神奈川県精神保健福祉センター)

【シンポジスト】長谷川 俊雄氏(白梅学園大学名誉教授)、石井 美緒氏(横浜市立大学附属病院精神科)、木本 克己氏(よこはま元町カウンセリングルーム)

支援を取り巻く環境が大きく変化する中、支援者には、多様化・複雑化する課題への対応に加え、自らも支えられながら支援を続けていくことが求められています。本シンポジウムでは、支援者支援、若者支援、心理支援、それぞれの実践をもつ登壇者が、現場で大切にしている視点や実践、そしてこれからの支援の可能性について語り合います。立場や分野を越えた対話を通して、支援者が孤立せずにつながり、支援を続けるための新たなヒントを参加者の皆さんとともに考えます。

講習会

● 13:30～16:40…8階AB会議室／精神保健福祉相談員講習会／定員100人 会場のみ

精神保健福祉相談員講習会 ダイジェスト版

【司会】岡田 隆志氏(福井県立大学)

各都道府県で実施されている「精神保健福祉相談員講習会」のエッセンスを凝縮したダイジェスト版プログラムです。講義と演習を通して、精神保健福祉相談の基本を実践的に学ぶことができます。毎年、受講者から「実務に役立つ内容」と好評をいただいております。精神保健福祉業務初任者(保健師・精神保健福祉士等)の方におすすです。

2日目

1/31 | 日 |

受付開始

9:15～

※午前と午後のプログラムを組み合わせで参加していただく構成です。

分科会1

● 【午前】9:30～12:00…3階ホール／定員260人 HF可

「当事者参画・行政への期待」 【座長】助川 征雄氏(聖学院大学総合研究所・名誉教授)

【演者】奥秋 匡史氏(川崎ダルク)、加藤 伸輔氏(特定非営利活動法人メンタルヘルス共創拠点ピアウェル代表理事)、堀合 悠一郎氏(認定NPO法人さざなみ会理事長)

【指定発言】行實 志都子氏(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科教授)

行政には制度やサービスを提供する役割だけでなく、当事者とともに地域をつくるパートナーとしての役割が求められています。本分科会では、当事者活動、ピアサポート、依存症支援などに取り組み当事者・当事者団体が、自らの経験を通して、行政に期待することや、より良い支援のために必要なことを率直に語り合います。当事者の声に耳を傾けることを出発点に、行政に求められる役割や協働のあり方について、参加者の皆さんとともに考えます。誰もが安心して暮らせる地域づくりのあり方をともに考えます。

分科会2

● 【午前】9:30～12:00…8階AB会議室／定員100人 会場のみ

「こころ、つながる、まちづくり～地域で育むメンタルヘルス支援の輪～」

【シンポジスト】吉田 友美氏(湯河原町／神奈川県)、谷崎 友亮氏(小田原市／神奈川県)、岩下 純子氏、増子 徳幸氏(横浜市／神奈川県)、中家 嘉章氏(和歌山県)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを自地域でどう進めるか。各地域では相談支援、アウトリーチ、ピアサポート、協議の場づくり、広域連携など、多様な実践が積み重ねられています。本分科会では、自治体規模や地域資源の異なる実践報告を通じて、精神障害のある人が地域で安心して暮らしているために、市町村・圏域・都道府県がどのように連携し、地域の仕組みを育てていくのかを考えます。

分科会3

● 【午前】9:30～12:00…8階F会議室／定員40人 会場のみ

「中核市における精神保健福祉業務等の「いま」を語ろう」

【話題提供者】渋谷 彩夏氏(川口市／埼玉県) 「若者のメンタルヘルスの「いま」と「これから」

小菅 俊彦氏(横須賀市／神奈川県) 「自殺未遂者を地域で支える 横須賀市における17年の実践」

上甲 由佳氏(高知市／高知県) 「措置業務を地域支援の入り口に 中核市への権限移譲がもたらす可能性と課題」

【指定発言】岡本 秀行氏(厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課)

全国62か所の中核市では、地域のニーズに応じた柔軟な精神保健福祉の取組が行われています。また福祉事務所や保健センター、都道府県との連携など、中核市ならではの強みや課題もあります。本分科会ではこの中核市の実践や魅力、特有の課題を共有し、明日からの業務に活かします。もちろん都道府県や市町村の皆様のご参加もお待ちしております！

分科会4

● 【午後】13:30～15:30…3階ホール／定員260人 HF可

「支援者支援と受援から考える、これからの災害対応～災害時に自治体職員を孤立させないために～」

【講師】伊藤 宏保氏(新潟大学医学部災害医療教育センター／新潟大学 未来社会共創ラボ) 講演：「自治体職員を支える「支援者支援」と「受援」～災害時に支えるために～」

【実践報告】小林 裕子氏、橋本 恵理氏(石川県穴水町) 「支援を受ける立場になって気づいたこと～能登半島地震での経験から～」

近年、地震や豪雨災害が全国各地で発生し、自治体職員は住民支援にあたりながら、自らも被災者として不安や葛藤を抱え、長期化する災害対応の中で心身ともに疲弊しやすい状況にあります。本分科会では、自治体職員を支える「支援者支援」の意義や、外部支援を効果的に受け入れる「受援」の考え方、さらに、令和6年能登半島地震における災害対応や受援の実態を学びます。あなたの自治体でできる災害への備えを、一緒に考えてみませんか。

分科会5

● 【午後】13:30～15:30…8階AB会議室／定員100人 会場のみ

「警察官通報における事前調査のポイント」

藤井 千代氏(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域保健・法制度研究部) 講義：「警察官通報の現状と課題、措置入院の運用に関するガイドライン」

門田 雅宏氏(滋賀県立精神保健福祉センター) 講義：「警察官通報における事前調査のポイント～厚生労働省科学研究 椎名班の研究より～」

グループワーク 【指定発言】藤井 千代氏(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域保健・法制度研究部)

岡本 秀行氏(厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課)

分科会6

● 【午後】13:30～15:30…8階F会議室／定員40人 会場のみ

〈座談会形式〉～みんなで語るメンタルヘルス支援の未来と、私たちの元氣～

みんなが安心して暮らせるまちづくりには、日々の支援に関わる私たち自身が元氣であることも大切です。このグループワークでは、それぞれの地域(自治体・圏域等)が持つ強みや、現在取り組んでいる実践、抱えている課題をみんなで分かち合います。人の悩みをみんなの知恵に変え、明日からの支援に活かせるアイデアをたくさん集めましょう。お互いの実践を称え合い、エンパワメントされる温かい時間を共に創りませんか。